# 令和８年度
# 中野市立中野平中学校
# 被爆地派遣事業報告書（広島市）



①　「平和のために私たちにできること」

山本　真帆

②　「『あの日』を繰り返さないために」

江本　龍之介

③　「被爆地訪問レポート」

佐藤　蒼士

# 平和のために私たちにできること

中野平中学校　３年　　山本　真帆

私は今回、中学生被爆地派遣事業に参加し、被爆地である広島を訪れました。そこで被爆建造物を見学したり、被爆体験講話を拝聴したりして、戦争の恐ろしさや悲惨さを学びました。

１ 日目は全国の子どもたちが集まり平和について考える「全国平和学習の集い」に参加しました。そこで被爆者である笠岡貞江さんのお話をお聞きしました。貞江さんは被爆地から 3.5 キロ離れた自宅で被爆したそうです。両親は被爆地に近い場所におり、父親は声を聞くまで父親だと認識できないほどの火傷を負っていたそうです。父親は被爆から 2 日後に亡くなり、母親は探したものの見つからず、後に人から父親と同じ日に亡くなったことを聞いたそうです。笠岡さんの「家に帰って『ただいま。』と言った時に『おかえり。』と言ってくれる人がいなくてとても悲しく辛かった。」という言葉を聞いて、私たちが今親しい人と日々を過ごせているのはとても幸せなことなのだと感じました。笠岡さんはお話の中で、「戦争は絶対にだめ。起こしちゃいけない。」と何度も強く訴えていました。これから被爆者の方からお話を聞く機会がどんどんと減ってしまうと思うので、私たちが被爆者の方々の思いや原子爆弾の悲惨さを次の世代に伝えていきたいです。

笠岡さんの被爆体験講話の後は、全国の中学生とディスカッションをしました。私たちが日常にできる「平和を築く行動」はどのようなものがあるかについて話し合いました。「差別を禁止するルールを作る」「意見を出しやすい場を作り、問題を話し合いで解決できるようにする」など、様々な意見がありました。平和のためには、一人一人が自分に何ができるか考え、取り組もうとする意識や、積極性が大切だと思います。全国の中学生と意見を交換し、考えを深められたのでよかったです。

２ 日目は、平和記念式典に参列しました。平和宣言や、平和への誓いでは「平和のために行動を起こすこと」「お互いを理解し、認めること」が重要であると言っていました。私も普段から相手を尊重し、思いやりを持って行動していきたいと思います。

平和記念資料館や被爆建築物である小学校には、ぐにゃぐにゃに変形したガラス瓶や缶詰、破れた子供の服が資料として置いてあり、原子爆弾の投下された当日も多くの人が普通に生活していたんだなと思いました。一発でその多くの人々の日常、そして命を奪った原子爆弾の威力や恐ろしさを感じました。

戦争や原子爆弾によって起きた恐ろしい事実は風化させてはならないことだと思います。この 3 日間で学んだことを、中野平中学校の生徒や周りの人に伝えていき、自分にできることは何かを常に考え行動していきたいです。

# 「あの日」を繰り返さないために

中野平中学校　３年

江本　龍之介

僕は被爆地である広島を実際に自分の目でみて、戦争や原爆はあってはならないと改めて実感する被爆地派遣事業になりました。また、全国各地から集まった学生の皆さんと考えを共有し、戦争や原爆の悲惨さを学びました。

１ 日目は全国平和学習の集いに参加し、被爆体験講話で笠岡貞江さんのお話を聞きました。笠岡さんは思い出すと辛いことなのに、次世代に伝えていくために涙をこらえて話してくださいました。原爆が落ちた瞬間、目の前が真っ赤になりドーンと大きな音がし、火の海になっていたそうです。その話を聞いて僕は言葉を失いました。にぎやかだった街が一瞬にして壊されたあの時、「原爆」は瞬きする間もなく約 14 万人を殺しました。その後の後遺症にも苦しんでいる人はたくさんいます。このことが二度とくり返されないために、今戦争をしている国、核兵器を所有している国は自分たちがしていることを理解し、世界を平和にしていくことが大事だと思います。

僕が一番印象に残っているのは「勉強ができることは幸せ」ということです。僕はこの言葉を聞く前は「勉強なんてめんどうくさい」、「勉強なんてやりたくない」と思っていました。ですが昔の子供達は勉強をしたくてもできなかったと聞いて、当たり前なことが昔は当たり前ではなかったとわかりました。だから僕は勉強をしたくてもできなかった子供達の分まで勉強を頑張ろうと思いました。

笠岡さんの被爆体験講話の後は、全国から集まった中学生 6 人とグループディスカッションを行いました。ディスカッションのテーマは「私たちが日常にできる平和を築く行動はどのようなものがあるか」でした。「自己中心的にならずお互いの意見を尊重する」、「今日学んだことを友達や先生など幅広い人たちに伝えていく」など様々な意見があり、一人一人が平和に対する思いを出し合い、考えを共有できたのがよかったです。

２ 日目は平和記念式典に参列しました。平和宣言や平和の誓いでは「価値観の異なる人々との国境を越えた交流を深めてください」と言っていました。戦争や原爆があってはならない、やってはいけないことなので、今は難しくても今後深めあっていき世界平和が訪れるように努力していきたいです。

戦争や原爆は自分には関係ないからと思ってはいけません。被爆者の方々が伝えてきていることを無駄にはせず、次世代の人々、友達、中野平中学校の生徒など、この３日間で学んできたことを伝えていき、あのような悲惨なことがないようにしていきたいです。

# 被爆地訪問レポート

中野平中学校 3 年　佐藤蒼士

広島で色々な話を聞き、実際に見て、自分の考えや気持ちなどを大きく変える 3 日間になりました。

被爆者の方からは、当時のことについて、今では考えられないような過酷な生活や状況であったとの話を聞きました。周りに倒れている人や助けを待っている人などが、本当に多くいらっしゃったそうです。他にも、ご飯は草を食べていたので腹が減っている状態が続いたなど、1 年前の生活の過酷さを知り、聞いていて苦しかったのを覚えています。被爆者の方のお話はどれも生々しく、心に残りました。

被爆者の方はこうもおっしゃっていました。年月とともに、実際に戦争の記憶を語れる人が減ってきている今だからこそ、若い世代の人たちに残して多くの人に話を伝えたい、もう二度とあんな状態に戻したくない、と。

現代でも戦争は起きているのに、戦争時のことなどの過酷な生活や苦しみを知らずに生きている人たちがいます。そんな人たちに少しでも伝えていくことが大切だと、広島で話を聞いて思いました。

また、原爆の恐ろしさが伝わる資料館に行きました。服はボロボロで木は黒く焦げ、見ているだけで当時の苦しみが伝わってくるようで、苦しくて喋ることもできませんでした。

広島は中野市よりも熱く、汗が止まりませんでした。今の時代はエアコンがあるからいいかもしれませんが、当時はエアコンなどなく、暑い時間が過ぎたと思います。そんな時の生活の記録などを読みました。暑さや空腹よりも、心の底ごとえぐられるような感覚など気持ちのことが多く書き記してありました。とても怖い話でしたが、それが現実で起きたことが信じられません。これからも忘れずに生きていきたいです。

今までの自分を振り返ってみて、日本の多くの人々は考えが甘いのではないかと思いました。平和記念式典で「広島で学習したことを多くの人に届けていくことが、世界の平和に近づく一歩だ」と高市総理がおっしゃっていたことが印象的でした。本当にこんなことは二度と起きてはいけないと心の底から思いました。



